



太陽光発電 窓にとりつけられたルーバー型ソーラーパネル。ひさしにもなり、一石二鳥だ。



廃品利用 フリースペース (5F) は廃品をうまく利用。机と椅子は学校から譲り受けたもの、壁には民家の古材を利用している。この薪ストーブは使わなくなったガスボンベを改造して作った。



高まる関心 月3回ビルの見学会が行われる。行政、マスコミ、企業、学生、主婦など、これまでに訪れた人は800人を超える。写真中央が牧村さん。

呼吸し、土に還る建物

—都市型環境共生ビル「グリーン・フェロー」—

「自

然の中で暮らしたいと、みんなが「田舎へ移動したら環境破壊でしょう」。牧村さんは都市で環境と共生し快適に暮らす方法にこだわる。

学生時代から公害問題に強い関心があった。環境関連の情報を集めるうちにその奥深さを知り、実践の必要性を感じた牧村さんは、3年前に機械メーカー社長を辞し、環境ビジネスに転身した。夫婦でこのビルで暮らす体験を生かして環境共生建物のコンサルティングなどを行い、エコロジカルな暮らし方を提唱している。

「今さら昔の生活には戻れない。時代に合った形で環境破壊のない豊かな生活をしたい。私の提唱をきっかけに

“緑の仲間たち(グリーン・フェロー)”が増えて欲しいですね。」

牧村さんは実践の1つに人を育てることを挙げた。生産者意識を持った消費者を育てること、特に若い人たちに快適な暮らしを伝えたいと語る。いま幼稚園に森を作る計画にも携わっているそうだ。

気になるコストは通常のテナントビルの2~3割高。だが毎日を健康的に過ごせることを思えば、高くはない。いま環境と人間に優しい住まいづくりへの関心は高く、全国各地でエコマンションやエコ団地、エコ集落などの計画が進んでいる。これまでの「より早く」「大規模に」「使い捨て」「相互依存

「競争型」の社会システムを省みて、徐々にではあるが、牧村さんが広めたと言う5S運動「ゆっくり(SLOW)」「小さく(SMALL)」「自立・自主・自助(SELF RELIANCE)」「持続可能な(SUSTAINABLE)」「分かち合い・共生(SHARING)」の社会システムに近づきつつあるように見える。

とにかくリラックスできる。いろいろな工夫に心躍る。ビルはまだまだ発展途上。「ゆくゆくは“緑の館”にしたい」。そう、この建物はまるで生き物のように、変幻自在に成長するビルでもあるのだ。

取材/石川奈々子(編集部)

撮影/坂元永、AD/花里みどり